

2025 年度（令和7年度）学校評価自己評価表

鳳中学校区	校番36	福山市立伊勢丘小学校
最終更新日		2025年（令和7年）4月14日

I 福山市	ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	---

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	・思考力・判断力・表現力 ・他者を理解し、関わる力 ・へこんでも立ち直る力
中学校区としてめざす子ども像及び現状並びに課題についてよく分かった。 積極的な情報発信を行い、保護者や地域と更なる連携協力を推進することを期待している。	地域の方に見守られながら穏やかに成長し、地域のために貢献してみようとする児童生徒が多い。 いっぽう、粘り強さに欠け、すぐに諦めてしまう傾向がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる。」 ・論理的に考え、他者の考えを尊重しつつ、自らの意見を主張することができる。 ・他者や集団のために、自ら考え、主体的に行動できる。
		中学校区として統一した取組等	・児童生徒が必要な情報を読み取り、適切に表現する「学びづくり」の推進 ・自尊感情の高揚へつなぐ「クリーンプロジェクト」の推進 ・多様な価値観を認め合う集団の育成

Ⅲ 自 校

ミッション		育成する 資 質 ・ 能 力		①生きて働く知識・技能 ②思考力・表現力 ③他者と関わる力 ④全力でやりぬく力
共に創る学校		めざす 子ども像	①	知識をつなげて理解し、活用する子
学校教育目標			②	「なぜ？」を大切に、じっくり考え、決め、表現する子
自ら学び 人間性豊かな子を 育てる ～未来を拓くリーダー性を育てる			③	みとめ合い、協力して取り組む子
			④	あきらめず挑戦し、最後までやりぬく子
現 状		研究	テーマ	「分かる・できる・つかえる」を実感する学びの創造 ～ 見方・考え方ははたらかせ活用を意識した単元デザインを通して ～
＜児童生徒＞ ○学力調査等から、児童は学習への意欲が高まり基礎的・基本的な学力は定着している。一方で「複数の資料を関連付けてまとめる」「複数の情報から必要な情報を見つける」「条件等に合わせて工夫して表現する」ことに課題がみられた。 ○様々な学校行事・児童会活動に主体的に取り組ませることにより自己肯定感が高まっている。一方で不登校傾向の児童が増加するなど学校生活に適応できない児童も増加している。 ○体育授業において、個々の目的に応じた環境を設定し児童の運動への意識は高まった。一方、日常の運動量には個人差がある。 ＜授業＞ ○全員が指導案を書いている授業研究を行うことで、教材・単元のねらいに重点をおいた授業改善を進めることができています。 ○児童一人一人の課題に着目することで、苦手を改善する為の手立てを学年間で交流することで、学力を伸ばすことができた。 ○教師主導の学びからの脱却をはかり学習指導要領の目指す主体的・対話的で深い学びを創っていく必要がある。			内容等	○ 単元の目標に向かう見方・考え方ははたらかせ、活用場面を充実させた単元デザイン ○ 教科等の見方・考え方を明確にし、問題解決を促す発問や場の設定の工夫 ○ つまずきを乗り越えるための支援の在り方
		めざす授業の姿	児童が、教科等の見方・考え方ははたらかせ、 「分かる・できる」を実感するとともに、「つかえる」につながる授業 ・児童が知的好奇心を発揮し、既有的知識や経験をもとに、問題を追求する。 ・児童が、自らの考えを適切に表現したり、対話したりして、見方・考え方を身に付け、多様な場面で知識・技能を活用する。 ・児童自身が学習を振り返り、自己の成長や課題に気付いて、粘り強く取り組む。	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立伊勢丘小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目 標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 を 評 価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期・中期経営 目標の達成状況	力 を 評 価	達成 評価	総合 評価	改善 方策
1	主体的に学び 続け、協働 的・創造的に 活動する児童 の育成	★	継続	児童の「わ かる・でき る・つかえ る」を実感 する学びづ くりの実現	・模擬授業を基にした教材研究 ・個々の課題と教科のねらいを 明確にした授業を実践したり、 帯タイムや個別指導など補充 学習を充実させたりして基礎 学力を定着させる。 ・学校図書館の活用をカリキュ ラムマップに位置づけて取り 組む。	○児童の肯定的評価 90%以上 ・「わかる・できる・つかえる」 と思う(昨年 93.8%) ○評価問題達成度 40%未満を 0%にする (昨年度3月時点 国 1 人 算 6人) ○学校図書館で年間 12 冊以上 本を借りる児童を 100%に する。(昨年度 48%)									
			継続	関わり合い、 認め合う 創造的な活 動による自 己肯定感の 向上	・児童が互いの良さや違いを 認め合い安心できる学級づ くり(環境整備・学級経営) ・一人一人が自分の力を発揮 し、協働的にやりぬく活動 の設定と振り返り	○児童・教師の肯定的評価 90%以上 ・自分で考え、委員会活動や係活 動に取り組んだ。 ・学校で安心してすごすことが できた。 ・安心できる学級づくりのため の取組ができた。									
			継続	自らの健 康・体力に 関心を持ち、 意欲的に取 り組む態度 の育成	・児童自らが、自分に合った目標 を決め、取組方法を改善してい く活動を設定した授業づくり ・メディアの活用時間をアンケ ート等で振り返り、活用時間を 自らコントロールする。	○児童・教員の肯定評価 90%以上 ・体育科の授業が好き、楽しいと感じた。 ・体育の授業で自分にあった課題を選べ た。 ・体育科の授業で児童実態に合わせた場を 設定できた。 ○メディア使用の時間が3時間未満の児童 を 85%以上にする。									
2	信頼される学 校づくりの推 進		継続	子供、保護 者・地域、教 職員の満足 度の向上	・「地域貢献」をキーワードに した地域の「ひと・もの・ こと」に関わる教育内容の 創造	○「地域貢献」をキーワードにし た教育内容を全学年実施 (100%) ○教育内容を充実させるための 研修を年2回以上実施 (100%)									

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評価点	評価基準	評価点	評価基準	評価点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標を一定程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。